

『幼稚園唱歌』 解説

『幼稚園唱歌』とは、現在、お茶の水女子大学附属図書館の倉橋文庫に所蔵されている貴重本で、墨筆による歌詞集である。これが記された年月、署名についての記載はないが、東京女子師範学校の原稿用紙に書かれていることから、その設立の1875（明治8）年11月以降のものであることは明らかである。また、その筆跡から豊田英雄によるものではないかともいわれている。表題には「幼稚園唱歌」とあるが、伊沢修二やメーソン等の功績の一つ「幼稚園唱歌集（明治20（1887）年文部省より出版）」ではなく、「保育唱歌」の歌詞となっている。「保育唱歌」の歌詞を集めた歌詞集としては、明治19（1886）年、市川八十吉編『幼稚園唱歌集』が出版されたともいわれているが、「保育唱歌」と同様、歌詞集においても、雅楽家や保育関係者等によって、私的な形でまとめられたものが今に伝わっていると考えられる。本学倉橋文庫には、清水たづによる『保育唱歌』の墨譜も所蔵されており、本学「日本文化研究コーパス」内、『明治16年 清水たづ譜 「保育唱歌」』および、『明治16年 清水たづ譜「保育唱歌」解説』を参照されたい。

なお、「保育唱歌」の歌詞は、フレーベル主義幼稚園教育書を翻訳した『幼稚園』、『幼稚園記』の中からも選出されている。その他に、『万葉集』、『古今和歌集』、『明倫歌集』など日本の古歌が用いられ、唱歌作成に従事した保母、豊田英雄、近藤濱によって、新たに作られた歌詞もみられる。

「保育唱歌」の歌詞集、およびその譜が、個人の手によってまとめられたものであることを上に述べたが、収められた曲の種類、その曲順もそれぞれに異なる。本学所蔵の、『幼稚園唱歌』の歌詞集には、そのうち91曲の歌詞が収められ、その曲順は「保育唱歌」の上申年月順にほぼ並べられている。しかしながら『幼稚園唱歌』にある「開誘歌」との分類は、豊田英雄作による歌詞（通番号1-9）にのみ付けられ、これらは上申年月が判明しない。当時、保育のことを開誘といい、幼稚園における唱歌を「開誘歌」と称していたことが『日本幼稚園史（1934年、倉橋惣三・新庄よしこ共著、東洋図書、231頁）』にみられる。中山エイ子『「保育唱歌」の古歌について（2004年『日本学研究』第7号182頁）』によれば、これらは、保育唱歌の作曲において、上申という形がとられる以前に、最も早い時期に作曲されたものではないか、との指摘がある。

記載事項としては、曲題、歌詞、歌詞の出典（作詞者、収められている歌詞集など）がある。その他に、分類（「開誘歌」、「親子歌」、「朋友歌」、「神祇歌」、あるいは「遊嬉」、「四季」、「修身」、「勸学」等）を示すもの、「不用」、「不」等の付記、「大人用」、「幼児用」、「幼児使ハズ」等の、朱筆、あるいは鉛筆での書き入れもみられる。これらは、教材として唱歌を検討・整理するために書かれたもの、あるいはそれを行った結果であるとも考えられる。

これらのことを総合すると、『幼稚園唱歌』がまとめられた目的として、それまでに書かれた唱歌を整理すること、およびその活用という展開などがあったのではないかと推測することも可能であろう。

文責：東元りか（お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科博士課程在籍 2009年5月）